

令和 6 年（2024 年）度 産学官・地域連携活動報告書

連携先名称：ワタミ株式会社（岩手県陸前高田市）

協定締結日：令和 3 年 3 月 12 日

活動状況：継続中

連携先窓口：ワタミエナジー株式会社 落合 美樹雄氏

活動資金：アイテムを選択してください。

担当教員(所属)：藤川智紀（地域創成科学科）

活動体制（単位）：個人

関連教員(所属)：本間裕人（醸造科学科） 浅井俊光（地域創成科学科）

活動目的：

1. 陸前高田でのワタミオーガニックランドの成長サポート

陸前高田市における持続可能な地域づくりを目指すワタミオーガニックランドにおける生産性の高い農業生産を可能にする生産基盤整備や未利用資源利用に必要な情報交換とアドバイスを行う。また、ワタミオーガニックランドで実施される、地域でのエネルギー自給を推進するソーラーシェアリングシステムについても、現地の情報を解析して、農産物と地域エネルギーのより効率的な生産の実現に向け、サポートする。

- ・オーガニックランド基盤整備および土づくりプロジェクトのサポート
- ・有機ブドウ栽培と営農強化型太陽光発電に関する研究
- ・営農強化型太陽光発電における果実栽培へのアドバイス

活動内容・成果：

1. 陸前高田でのワタミオーガニックランドの成長サポート

- ・研究計画に関する打ち合わせ

実施時期：2024 年 6 月 12 日

参加人数：計 6 名（農大教員 3 名、連携先関係者 3 名）

<成果>

東京農業大学世田谷キャンパスにおいて、本年度の研究方針に関する打ち合わせ。営農強化型太陽光発電が根域制限栽培によるブドウ栽培およ

びワインの品質に及ぼす影響に関する研究を進めること、また未利用資源として得られるメタン発酵消化液の肥料効果の検証に関する研究を進めることを決定。

・ 営農強化型太陽光発電下におけるブドウの生育状況および未利用有機物資源に関する現地調査

実施時期：2024 年 9 月 4 日

参加人数：計 6 名（農大教員 1 名、農大学生 2 名、連携先関係者 3 名）

<成果>

ワタミオーガニックランドにおいて、営農強化型太陽光発電下におけるブドウの生育状況およびオーガニックランド内の営農状況に関する現地調査を実施。また、未利用資源として利用を想定するメタン発酵消化液に関して、実際に地域の廃棄性有機物（生ごみ）を資源化し消化液を製造している南三陸市のプラントを見学し、資源循環の取り組みに関する情報を収集した。



・ 令和 6 年度成果報告会

実施時期：2024 年 12 月 13 日

参加人数：計 6 名（農大教員 3 名、連携先関係者 3 名）

<成果>

東京農業大学世田谷キャンパスにおいて、本年度の成果報告会を実施。本間准教授より営農強化型太陽光発電下で根域制限栽培により栽培されたブドウからつくられたワインに関して、同種のブドウかを原料とする市販のワインと比較して極めて濃い赤色であることや酸味が高いことが報告された。また、藤川教授よりオーガニックランドの土壌に対してメタン発酵消化液を施用したところ、コマツナ栽培において化成肥料と同様の生育が得られることが報告された。

・令和 7 年度の研究に向けた打ち合わせ

実施時期：2025 年 3 月 31 日

参加人数：計 5 名（農大教員 3 名、連携先関係者 2 名）

<成果>

東京農業大学世田谷キャンパスにおいて、2025 年度の研究の取りまとめと 2026 年度の方針について打ち合わせ。活動報告書と計画書の内容について検討した。

課題・改善点：営農境界型太陽光発電がブドウの品質に及ぼす影響をさらに詳細に解明するために、データの収集を継続する。また、地域での資源循環を想定して、地域内から得られる消化液を用いて、より多くの作物への適応が可能かどうかを検証する必要がある。